

製品名: CPI-17 (リン酸化 Thr38) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04492**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R14A
別名	PPP1R14A; CPI17; PPP1INL; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 14A; 17 kDa PKC-potentiated inhibitory protein of PP1; Protein kinase C-potentiated inhibitor protein of 17 kDa; CPI-17
遺伝子 ID	94274.0
SwissProt ID	Q96A00
免疫原	抗血清は、Thr38 のリン酸化部位周辺のヒト CPI17 α 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 5-54

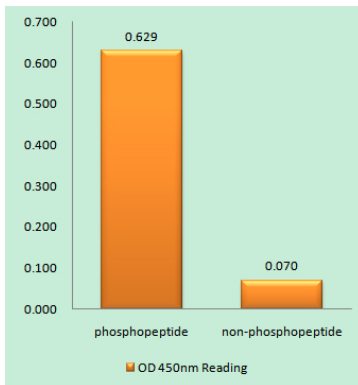
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) 阻害因子ファミリーに属する。このタンパク質は平滑筋ミオシンホスファターゼの阻害因子であり、リン酸化されると阻害活性が上昇する。ミオシンホスファターゼの阻害は、ミオシンのリン酸化を増加させ、平滑筋の収縮を増強する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが知られている。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]機能: PPP1CA の阻害因子。リン酸化されると 1000 倍以上阻害活性が上昇し、PPP1CA 基質のリン酸化状態と平滑筋収縮を制御する分子スイッチを形成する。類似性: PP1 阻害因子ファミリーに属する。組織特異性: アイソフォーム 1 は大動脈と精巣で検出される。アイソフォーム 2 は大動脈で検出される。

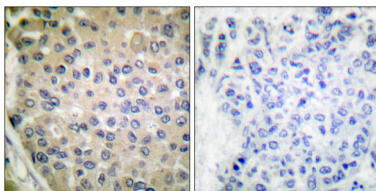
研究分野

血管平滑筋の収縮;

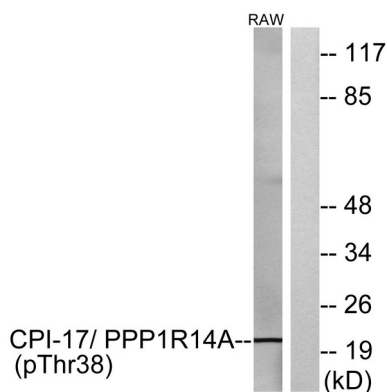
画像データ



CPI17 alpha (リン酸化 Thr38) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



CPI17α (リン酸化 Thr38) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



RAW264.7 細胞ライセートの CPI17α (リン酸化 Thr38) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。